

第16回歴史&ハイキング愛好会例会実施報告

『四谷～紀尾井町～桜田門 江戸古地図を眺めながらの歴史散策』

当番世話人 田代 周

前夜に降っていた雨もあがり、小春日和に恵まれた11月12日土曜日午前10時、JR四ッ谷駅に参加者17名が集まりました。

前日までの数日間、寒い日が続いていましたが、この日は暖かく、また風も無く絶好の散策日和となりました。都心の紅葉も始まったようで、一部に色づいてきた木々も見られる中、散策途中にある現在の道や施設・建物が、江戸や明治の時代はどうなっていたのかを、古地図に照らし合わせて検証しました。

☆ 現在の甲州街道を通す際、四谷見附周辺の外堀となっていた石垣の一部を切り開いたために昔の石垣とは造り方が違う。

☆ 紀伊徳川家・尾張徳川家・井伊掃部家の中屋敷が建ち並んでいた一帯は、その頭文字をとって紀尾井町の名前となった。

☆ 広大な大名屋敷跡地は、現在、官公庁や大きな商業施設として利用されているが、明治時代には皇室宮家の住居地であったり、軍などの施設として利用されていた。

☆ 江戸が100万都市として栄えた理由の一つに水道施設の整備が挙げられるが、当時使用された大きな石樋が清水谷公園に置かれている。(時間の都合で現場確認は割愛)

☆ 昼食休憩の場所となった憲政記念館では、たまたま開催中の特別展「普通選挙を目指して～犬養毅・尾崎行雄～」を覗く。

憲政の功労者“尾崎行雄”に因み建てられた時計塔から13時の鐘が鳴るのを合図に午後の部がスタート。日本各地の標高を測る水準原点が置かれるこの台地の上から桜田門を眺め、ここに屋敷を構え、桜田門外の変で犠牲となった屋敷の主、井伊直弼を偲ぶ。

等々・・・。

散策途中の道は休日のせいか、行き交う人も少なく静かな感じでしたが、桜田門が近づくとつれ、お堀を巡る多くのランナーが私たちを追い越して行き、門をくぐった皇居前の広場はさらに多くのランナーや観光客で賑わっていました。

皇居前広場に置かれた楠木正成侯（大楠侯）像を眺め、内堀を前にして建つ明治生命館に立ち寄り、内部を見学して今回のコースは終了・解散となりました。時刻14:30。

ここまで順調に巡って来たので、時間が早すぎてこの後の反省会の会場探しに一苦労。丸の内周辺はどこの店も17時にならないと開店とならず、結局、足を延ばして八重洲側まで移動。ようやく見つけた店で反省会を開催しました。参加者12名。

皆でビールで乾杯。早速、万歩計を取出して本日の歩数をそれぞれ見せ合っていました。終了時刻は16時を一寸すぎたころだったでしょうか。お疲れ様でした。

以上

☆ JR中央線 四ツ谷駅[赤坂口]で田代世話人コースの案内



☆ 行程中にある現在の主要施設・建物と江戸古地図との関連説明を受けながら散策







左上：西長義方、平木行雄、川股賢三、山田昌之、白岩仙一、木頃勝紀、牧田賢二
 左下：住田勝治、小澤敏宜、遠藤哲也、田代 周、中島公一、浦上宜明、岩田芳秀、
 佐々木梧郎、橋本裕一郎、六角 学





☆黒田家の家紋【裏銭紋】



☆ 【水準原点】 明治 24 年に設置された



☆ 【桜田門】を眺める

